

	番号	地域課題	ポイント	手立ての 必要度	手立て (対応策の検討)	
高齢者の ニーズ	4-1	家賃が家計を圧迫しているが転居できない。	居住支援	○	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者をチームで支援できる体制づくり。 保証人がなくても入居できる集合住宅の情報を得られる相談窓口やしくみづくり。 生活困窮者の施設やシルバーハウスなど共同生活できる場所。 不用品のマッチング 	
	4-2	配偶者が亡くなると、意欲が低下したり生活が立ち行かなくなる。	社会参加		<ul style="list-style-type: none"> グリーフケアの啓発 「男性一人の会」などを作って食事をしたり交流できる場を作る。 地域で見守る体制づくり（行事への参加など） 男性の回想法スクール 同郷の人の集まり、県人会 	
	4-3	頼れる親族や知人が全くいない。	権利擁護	○	<ul style="list-style-type: none"> 身寄りのない方の対応を権利擁護センターが医師会と検討する。 （高額ではない）有償のサービス（入院時の支援、通帳管理など） 	
	4-4	老後の家計について無頓着なまま生活している。	権利擁護		<ul style="list-style-type: none"> 改めてお金について考える機会が持てるようなセミナーの企画。 	
	4-5	栄養バランスのとれた食事ができていない。	情報提供		<ul style="list-style-type: none"> 食事のサポート体制（栄養、配食、体調確認など多職種で一体的にサポートできるしくみ）づくり。 	
住民・地域の課題	4-6	飲食店のセルフサービスやキャッシュレス決済ができない。			<ul style="list-style-type: none"> サロンで体験ツアー キャッシュレス決済講座の企画。 	
	4-7	男性が一人でも立ち寄ることのできる、お金もかからない場所がない。	情報提供、多世代交流	○	<ul style="list-style-type: none"> 子ども食堂や多世代交流できる機会についての情報提供、同行支援。 モーニングや安価な店などのマップ作り 空き家の利用 	
社会資源の課題	介護	4-8	デイサービスに行くのは気が進まないという男性がいる。	情報提供		将棋やマージャンなどができる場所やデイサービスの情報を集約する。
	医療	4-9	自己判断で通院や服薬をやめてしまう。	健康を意識できる	○	<ul style="list-style-type: none"> 「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」によるミニ講座を独居男性が立ち寄りそうな場所で実施する。
	住まい	4-10	住まいについて相談できる窓口がわからない。	居住支援	○	<ul style="list-style-type: none"> 保証人がなくても入居できる集合住宅の情報を得られる相談窓口やしくみづくり。
	生活支援	4-11	配偶者が亡くなると、意欲が低下したり生活が立ち行かなくなる。	社会参加		<ul style="list-style-type: none"> 「男性一人の会」などを作って、家事を学ぶ機会を持つ。
支援者の課題	専門職の数、資質	4-12	配偶者を亡くした方への支援のスキルアップが必要。			<ul style="list-style-type: none"> グリーフケアについて学べる機会を作る。
	連携、ネットワーク	4-13	意欲が低下してしまったへ人の支援力が不足。		○	<ul style="list-style-type: none"> 専門職がチームを作り生活支援や傾聴を行う。